

令和5年度小松市立向本折小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	＜あたかたつよい集団をつくる＞	・学期初めに学習オリエンテーションを行い、全校で学習規律の確認をすることができたが、次第に慣れが生まれ、廊下歩行やチャイムで授業を始めることに乱れが生じるようになった。2学期最初に学習オリエンテーションと「みんなでスタート」の取組を行い、 ・「学校は楽しい」96.1%、「友達と仲良くしている」98.5%、「みんなで何かをするのは楽しい」99%という結果で、ミニレターだけでなく、児童会企画の取組や、たてわりの活動なども相まって肯定的意見が多かった。言葉遣いについて、ブラスの表現を習慣化できるとよい。一年生のお世話など、異学年交流がとてよかったので、続けていきたい。 ・挨拶に関するアンケートの結果、児童は90%、保護者は88.8%であった。「誰に対しても」「玄関以外でも」の意識を高めている。	・全校一斉に学習オリエンテーションを行うことについては意味がある。学期によって内容を学年に応じて精選して行うことでルールの確認をすることができた。「みんなでスタート」の取組は、児童が「できた」と実感できる内容で全校で行えるとよい。 ・「学校は楽しい」「友達と仲良くしている」「みんなで何かをするのは楽しい」といった項目で肯定的な回答をしている児童が多く、取組の成果だと言える。今後も続けていけるとよい。 ・挨拶に関して、学期に1回子ども達が自分たちで考えてできる取組を行い、当事者意識をもたせていくとよい。
	・各学期始めに学校の現状にあった学習オリエンテーションを行い、どのクラスも学習規律が定着し、落ち着いて学びに向かう集団にする。 ・同学年の友人や上級生、下級生とミニレターのやりとりを行い、あたかたい気持ちや伝え合う取り組みを行う。 ・児童会と連携して、学期ごとに元気なあいさつが自分からできるようにする取り組みを行う。また、相手の立場に立って考え、行動できる子を育てる。		
児童会	＜児童の主体性を高める＞	・小松市小中学生サミット「一人一人の学校生活を楽しく豊かにしよう」をテーマに児童会で全校活動を考えた。1学期に「スペシャルスリイベント」を実施することで、違いを認め、個性を生かし、相互に高め合う姿が見られた。 ・2学期には、児童が主体的に活動できる取組として「向本折つ子祭り」「運動会」を企画している。 ・上学年が主体的に行事を考え実現していく姿を下学年が手本とし、たて割活動を生かして魅力ある学校づくりを児童自身が目指していけるようにしたい。	・前期児童会で提案された「向本折つ子のお楽しみ祭り」を後期児童会が実現することができた。「学年関係なくみんなが楽しめること」をめあてとし、取り組み、上学年は企画・運営を通して下学年に対し思いやりの気持ちをもって接すること、下学年は上学年に対し感謝の気持ちをもつことができた。 ・たて割り活動を活かした運動会や掃除などの活動を通して、主体的に考え行動し、児童が自分たちで学校の取組を企画し実現していこうとする意識が高まった。 ・児童会で企画した行事が実現することができるということを全校児童に知ってもらう場を全校集会などで設ける。
	・授業や学校行事など、児童が主体的に活動を計画・実施できるよう支援し、児童の主体性を高める。 ・たて割り活動や児童会活動など、上学年の活躍の場をつくり、下学年があこがれる上学年にする。		
道徳教育	＜重点目標を要とし、思いやりのあるやさしい心を育む＞	・教室や職員室前の掲示板に重点目標を掲示したことで、職員や児童が「やさしい心」への意識を持って学校生活を送ることができた。 ・2学期以降、地域の方や保護者等をゲストティーチャーとして招いた授業を実施する予定である。 ・道徳通信を1学期に発行することができなかった。 ・2学期は家庭学習として、児童が道徳の授業で考えたことを家庭で保護者に伝え、保護者の意見や感想を書いてもらうという課題を出し、集まった意見を道徳通信で発信し、家庭と連携して児童の心を育てていく風土づくりの一助としたい。	・家族道徳の取組を実施できた学年があった。 ・今後、その取組を道徳通信として発行していく。まだ実施できていない学年には呼びかけをする。 ・ゲストティーチャーの取組に関しては、3学期に「国際理解、国際親善」の内容項目でいりんばーの一むの児童との授業などを予定している。
	・重点目標を校内や教室に掲示し「やさしい心」への意識を高める。 ・地域、保護者等、外部人材と連携しながら、家庭や地域の教育力を生かした授業実践を行う。 ・学校での道徳的取組などについて、保護者に向けて道徳通信を発行し、地域、保護者と共に児童の心を育てていく。		
読書教育	＜読書の質の向上を図る＞	・個人のチェックシートへの記入を行っているが、記入漏れが目立つ。今後も継続して声かけを行っていく。 ・担任や図書ボランティアによる読み聞かせを計画通り実施できた。担任による学級文庫の紹介を通して学級文庫への関心を高めていきたい。 ・司書が学習の関連図書・季節や行事に合わせた図書を準備し、児童が様々な分野の本に触れる機会が増えた。 ・読書集会では学級文庫の紹介を行い、日頃読まない図書への関心を高め、読書の幅を広げることにつながった。 ・家族読書の取組を行い、親子で本に親しめるようにした。家庭向けのおたよりを発行し、家庭での読書を推進した。しかし、家庭での読書習慣の定着は弱い。 ・2学期は日常的に10分読書を宿題として提示し、家庭での読書を推進していきたい。	・アンケートの読書の項目では、児童は65.3%、保護者は57.1%が家庭で進んで読書をしていると答えていた。昨年度末の数値と比較してみると、児童・保護者どちらも上昇した。家族読書の取組や家庭向けのお便りの発行によって、家庭での読書の大切さを呼びかけたことが効果的だった。 ・朝のさわやかタイムでは、学級文庫の図書や司書の選書の読み聞かせを継続して行った。 ・学習の関連図書や季節・行事に合わせた図書の活用も継続して行い、児童が多分野の本に触れる機会をもつことができた。 ・宿題の中に10分読書を取り入れる取組を行ったが、学年ごとに宿題に出す頻度が異なっていた。今後は、どのクラスも図書館GOの日は10分読書を宿題に出すことを統一して取り組んでいきたい。
	・さわやかタイム（朝の帯タイム）で学級文庫を読んでチェックシートに記入する。また、担任や図書ボランティアが学級文庫や司書の選書の読み聞かせを行う。 ・学習の関連図書、季節や行事に合わせた図書を紹介し、様々な分野の本に触れる機会をもつ。 ・読書集会で本の紹介をし合うことで、読書のへの関心を高め、読書の幅を広げる。 ・定期的に家庭向けのおたよりを発行し、家庭での読書を推進する。 ・毎月1回、家族読書の日を設定し、親子で本に親しむことで、読書への関心を高める。		
人権教育	＜自分と他者を大切にしようとする心を育む＞	・異学年での交流に加えて、同学年や学級内でも、「ありがと」を伝えるミニレターのやり取りを行った。今後もミニレターを通して、温かい言葉で伝え合う機会を持つようにする。温かい言葉の取組は、2学期後半の人権集会へもつなげていきたい。 ・特別支援学級在籍の児童についての理解を深めるための授業を今年度も行うことができた。保護者がゲストティーチャーとして参加してくださった。また、パラアスリートを迎えるための「あすチャレンススクール」に参加することができ、車椅子スポーツを体験したりチャレンジする大切さを考えたりする機会を持てた。 ・夏季休業中には、外国ルーツの児童を理解するための職員研修を計画している。	・年間を通して、ミニレターの交流を行った。運動会等の大きな行事のあとは、模造紙に貼り、廊下等に掲示をし、多くの児童の目に触れるようにした。異学年だけではなく、学級内でも席替えの前後にミニレターの交換をする等、感謝や温かい言葉による交流の機会を持つようにしてきた。 ・11月の生活目標「自分・友達の成長を見つけよう」に合わせて各学級で「成長見つけ」の取組を行い、良さと努力、成長等を伝える機会を持った。12月の人権集会では、児童の実行委員が学校の課題から集会の目標を「学校をやさしい言葉・人を認める言葉でいばいよう」とし、「成長見つけ」で使われた「ほわほわな言葉」をさらに学校中に広める機会とした。温かい言葉が継続して使われていくために今後も児童への働きかけを行ってきたい。 ・小松市出身でインドネシアに在住する方からオンラインでお話を聞く職員研修を行った。イスラム教を基盤とする考え方や文化についての内容はとても参考になった。本校は、外国ルーツの児童が多く、日本語初期指導教室も設置されているため、今後もテーマを変えながら、職員の研修を続けていきたい。
	・複数の学年で取り組む学習や行事の後に、異学年とミニレター形式でふりかえりを交流する。 ・道徳や学活、総合的な学習の時間等で、自分や友達のよいところみつつけを行ったり、ありのままの自分を受け入れたりするなど自己肯定感を高めるための活動を行う。 ・本校在籍の外国ルーツの児童や日本語初期指導教室に通う児童生徒の理解を深めるための職員研修を行う。		
保健健康教育	＜すこやかな身体を育む＞	・学校保健委員会では高学年の児童を対象に前年度のスポーツテストの結果を発表し、課題を共有した。また、講師にスポーツインストラクターの先生を招聘し、日常的に取り入れることのできる運動の紹介してもらい、運動に対する関心を高めることができた。 ・生活チェックアンケートでは、ネット・ゲームのきまりを守る項目が88.6%、睡眠時刻の項目は67.7%という結果となった。睡眠時間が確保されていない児童が多い為、2学期に睡眠指導を行う。 ・「メディアと健康」に関する情報では、ゲーム依存に関する動画を視聴し夏休みの生活を考える良い機会となった。2学期はゲーム脳やゲームが学習に及ぼす影響についての情報を発信したい。	・3学期体育委員を中心に8の字跳びの強化週間を実施し、全校で8の字跳びに取り組み機会を設ける。 ・2学期の身体計測時に睡眠指導を行った。2学期の生活チェックアンケートでは、ネット・ゲームのきまりを守る項目が88.7%、睡眠時刻の項目は78.4%という結果となり、睡眠時刻に関して数値が上がった。ネット・ゲームのきまりに関しては家庭との協力、共通理解が重要なため、さらに家庭に呼びかけて行く必要がある。 ・2学期に「ネット・ゲームの使い過ぎで、脳機能が低下する！」という題で、ネット依存・ゲーム障害にならないために、使用する時間を決める、ルールを決めたりすることが大切であることを各学級で指導した。冬休みや3学期に生活チェックを実施する。家庭と連携し、児童のメディアとの関わり方について意識を高めてたい。
	・前年度のスポーツテストの結果で課題となった、持久力・柔軟性の向上のため、スポチャレ8の字・長縄、準備運動でのストレッチに取り組む。 ・学期に1度生活チェックを行い、規則正しい生活を見直す機会を設ける。 ・「メディアと健康」に関する情報を学期に1回視聴する機会を設ける。		
情報教育	＜ICT機器を活用して、教科の学びを深める＞	・研究授業の際に、学習用端末を使用した実践を行ったことで、端末の活用場面の幅を広げることにつながった。また、夏季休業中にGIGA校内研修を行い、1学期の実践を共有した。 ・各学年で身に付けさせるべき情報活用能力を明確にするため、メディアスキル指導計画表を作成した。それを指導計画綴りに綴ることで、達成度を常に確認できるようにした。 ・カリキュラムマップにプログラミング的思考を高めるのに適した単元を明記している。2学期以降、カリキュラムマップにもとづき、授業実践を進めていく。	・授業実践の共有が難しいため、実践報告という形ではなく、情報担当の授業を参観してもらうという形で3学期実施する。 ・メディアスキル指導計画表について、各学年の目標が適切かどうかを見直す必要がある。次年度に向けて、情報担当と各担任とで目標を検討する。 ・学習用端末の使用方法和ネットでのマナーが、慣れもあって少しずつルーズになってきている。学期ごとに行う学習オリエンテーションに情報モラルについての内容を組み込む。
	・年間指導計画やカリキュラムマップを基に、学習用端末が効果的に利用できる場面や活用方法を考え、活用を推進する。 ・ICT機器を活用した授業実践を定期的に共有し、児童の学びを深める授業に繋げる。 ・各学年の発達段階に応じて、プログラミング的思考を養うための授業を行う。		
家庭・地域との連携	＜開かれた学校づくりの推進＞	・ハウス栽培や芋ほり、町探検を通して地域の人と触れ合ったり、地域の先生に詩吟を教わったりと、地域の人材を活用した取組ができた。今年度は創立150周年の取組として、3年生以上で向本折の歴史や産物について学習するので、2学期も地域の人から学ぶ機会がもてると期待している。 ・学校ホームページでは、行事や子どもたちの学習の様子を定期的に更新して伝えている。コードモンで月予定や給食献立表を配信し、保護者に確実に情報を伝えたり、職員の業務改善につなげたりすることができている。	・創立150周年事業において、児童が向本折の歴史や産物について調べたことを地域の人に発表する機会がもてた。地域への発信の場になり、郷土愛を高めることにつながった。 ・学校だよりやホームページにより、月予定や学校行事の様子等を発信することができた。コードモンによるお知らせが保護者に明確に伝わるように、担当者が文書作成を行い、管理職が確認の上、配信する方法に変えた。
	・授業や特別活動において地域人材を活用し、学習活動の充実を図る。（総合的な学習の時間、道徳、クラブなど） ・各種便りやHP、メール配信等で学校から適切に情報を発信し、家庭や地域との連携に努める。		
学校関係者評価	・よい授業を目指すためには、児童同士が他のクラスの授業を見合うことも効果があるのではというご意見をいただいた。1学期には6年生によるモデル授業参観、2学期は授業を見合い感想交流等を行っており、今後も改善を加えながら実施していきたい。 ・業務改善については、どんな時間が不足するのかを問われた。授業の準備や個別指導の時間をとるため日課の改善を図る予定であること、教科担任制の拡大やデジタル教材の効果的な利用をすすめていくことで対応していきたい。 ・本校の縦割り活動について、良い効果が出ていると思われる。また、授業の中で話す力や話し合う力について、教師と児童の肯定的回答率の差が縮まっていることから、教師の思いや行動が児童に伝わっていることが分かるというご意見をいただいた。		